



視覚障がい者支援の基礎を学ぶ

「ガイドヘルプボランティア養成講座」

視覚障がい者への理解を深める講義を3日間受講し、その後ガイドヘルプの実技として実際に街に出て、商業施設での歩行やバス・電車の乗降の介助を3日間体験学習しました。



8~10月<全6回>
受講者 延82名



「相手が主人公」と考え関わる

「傾聴ボランティア養成講座」

9/23・10/6<全2回>
受講者 延77名



よい聴き手になるために…というテーマで、すべてのボランティア活動の基本となる『傾聴』について学びました。多くの受講者で会場はいっぱいとなり、講師の先生のアドバイスに熱心に耳を傾けていました。講義のあとには、三人一組となりロールプレイを体験しました。



ボランティア
講座を開催
しました!

「精神保健福祉
ボランティア養成講座」

自分らしく生きていけるような支援を

精神障がいへの正しい理解の普及と、障がい者と地域をつなぐ人材の育成及び、精神保健福祉ボランティアの養成を目的に開催されました。講座の最後には、希望者を対象に『あじさい工房』での活動体験を行いました。受講者の皆さまには今後、地域や施設でのボランティア活動を通じて、精神に障がいのある方たちに寄り添うボランティアとして活躍していただくことを願っております。さらにこの講座が、精神に障がいを持つ方への正しい理解を広め、住みよいまちづくりの手助けとなればと思います。

10/12・18・27<全3回>
受講者 延27名



参加してよかった!



「災害支援
ボランティア養成講座」

災害ボランティアセンター運営体験を聞く

11月15日(火)
受講者 25名



～過去の災害から学ぶ～をテーマに、成田市の災害ボランティアに登録されている方や未登録者で災害ボランティアに興味がある方を対象に、東日本大震災で大きな被害を受けた旭市に行ってきました。防災資料館では、当時の様子をまとめた映像を見たり、被害の状況について詳しくお話を伺いました。旭市社会福祉協議会では、災害ボランティアセンターの役割や立ち上げから閉所までの流れ、運営中の問題点など、実際に経験したからこそその貴重なお話を伺うことができました。受講者の皆さまからは、熱心な質問が相次ぎ災害支援に対する意識の高さを感じる講座となりました。

ボランティアグループ紹介

高齢者の方と会話する際の手法の一つ「回想法」。平成28年6月に新規登録されたグループです。今回は活動の様子を見学してきました

「回想法の集い・成田」 (シニア・レミニス)



「回想法」とは

① 良い聞き手 ②安心して語れる場所 ③計画された流れの3つに基づいて高齢者の過去の人生を回想することにより、いろいろな面での治癒効果（心身の活性化）を期待して行います。

この日のテーマは「冬支度」。テーマに沿って「リーダー」（司会進行者）が参加者の方々とお話を進めていきます。話題に上がる「こたつ」や「囲炉裏」等の写真パネル、実物の「湯たんぽ」等はあらかじめ小道具として用意してあります。高齢で聞き取りにくい参加者には隣に座った「コ・リーダー」（補助者）がその都度耳元で伝えます。昔懐かしい話題に盛り上がり途中脱線しかけても、経験に裏付けされたリーダーのテクニックでちょうど時間内に終了しました。最後に皆でクリスマスとお正月の歌を練習し、テーブルの上を片付けて雰囲気を変えた後は、お茶を飲みながら雑談タイム。メンバー持参の大判焼きをほおばりながら参加者もボランティアメンバーも笑顔が絶えない様子でした。

始める前に控室にて入念な打ち合わせ中。
参加者とボランティアメンバーの席順や回想法の進め方をメンバー全員で確認します。



いろいろの写真パネルに見入っています。
回想法には欠かせない小道具を事前準備することも大きなポイントです。



成田市内の活動場所：「さっちゃんの家」成田市不動ヶ岡 2034-97

「シニア・レミニス」のグループ活動は、基本的に毎月第1・3金曜日です。ボランティアに興味のある方は、ぜひ、ボランティアセンターまでお問い合わせください。

編集
後記

皆さんは『回想法』という言葉をご存じでしたでしょうか？今回取材してみて、ボランティアさんがお年寄りに寄り添う優しい姿が心に残りました。単なるお話し相手ではなく、テーマに乗っ取った会話の流れを作る「計画性」と「めりはり」には、奥の深さを感じました。参加者の方には懐かしい掘りごたつや薪割りの話も、それらを知らない世代にとってはとても新鮮でした。